

再生可能エネルギー等イノベーション共創プラットフォーム
令和5年度第3回 CIREn 評議会 開催結果

日 時：令和6年3月13日（水）10:00～10:45

方 法：Web 会議

出席者：

（委員） 福田委員長、手塚委員、泉委員、森委員、川崎委員、原委員、
野間委員、池上委員、大渡委員、鶴田委員、蒲地委員

（事務局） 佐賀大学工学部 谷口事務長、辻田係長、川副氏
佐賀県産業グリーン化推進グループ 谷口係長、竹内主査

1 開会

2 議事

議事1 令和6年度 CIREn 予算（案）について

○研究支援費増額と継続した広報活動費の確保について

県議会にて昨年度と同額で議決された場合、研究支援費を増額したいこと、引き続き広報活動費を一定程度確保したいこと、情報収集活動費の減額を説明した。

<委員からの意見>

- 資料 P8 の個別研究等の取組件数はどのように計上しているのか。
⇒各分科会で取り組んできた研究案件であり、1つの分科会で複数の個別研究等に取り組んでいる場合もある。令和5年度から令和8年度までの取組件数の目標としては、新たに10件以上創出することとしている。
- 研究支援費の割り振りについては、資料 P4 に記載があるように製品化に向け進めていかなければならない面もある。そのため、製品化に近い研究分科会に重点的に研究支援費を割り振ることも1案と考える。

議事2 交流会の開催方法について

○交流会の参加人数減少を踏まえた次年度開催方法の検討

これまで総会1回・交流会年2回を開催してきたが、参加者が減少し声掛けしないと集まらなくなったことを踏まえ、総会と交流会（成果報告会）の2回とするのか、別の新しい形で開催するか議論をいただきたい旨を説明した。

<委員からの意見>

- 有意義な交流が図られていれば参加人数は少なくてもいいのではないか。
- 各分科会単位で交流があれば、全体の交流の場は2回でもいいのではないか。
⇒各分科会の個別会議等の後には、交流が図られていると推察される。
- 成果報告会については、分科会が増え、各分科会の発表時間が短くなっていることから、座長である先生方も内容を十分に発表できていないのではないか。また、成果報告会が半日と長いため、成果報告会を2回に分けて行い、最後に懇親会を設定するのはどうか。

⇒事務局検討。

- ▶ 交流会を基調講演とする場合、魅力ある講師を呼ぶのは難しい。
- ▶ 機密事項が多くあるとは思いますが、各分科会でポスター展示をするような形式はどうか。

⇒事務局検討。

- ▶ 大学と企業が研究開発を進める上で、気軽に意見交換ができるような関係性を構築することは重要であると考えている。そのため、交流の場を年3回は提供して欲しい。
- ▶ 懇親会は工夫することで出席者が増えると考えている。例えば、県内の酒蔵に協力してもらうことはどうか。

⇒事務局検討。県ではGXモデル企業創出業務で、小城市の天山酒造を伴走支援した。声を掛けることはできると考える。

報告事項1 令和6年度研究支援事業の運用について

事務局から、来年度（上半期）スケジュールを含め、今後の予定を説明した。

<委員からの意見>

特になし。

3 その他

<委員からの意見>

特になし。

⇒本日皆様からいただいた貴重なご意見を吟味し今後検討していきたい。

4 閉会